

教育目標		たくましく心豊かな子どもの育成						
重点目標		・「主体性」をキーワードに保育実践を行い、「意欲」「豊かな表現」「思いやり」「共同」を育む教育を推進する						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
確かな学力の向上	主体性の尊重	○主体的に行動し、遊び込む子どもを育成する保育を実践する。	・遊び込む子どもの姿をもとにしたエピソードカンファレンスの中で、遊び込む姿につながる環境の構成のポイントについて話し合う。 ・園庭の環境および、保育室の遊びについて職員間で話し合い、環境の再構成を行う。 ・他園の研究会に参加し、子どもの主体性を育む保育を学ぶ。 ・隣接する小学校の校内研究会等に参加し、互いの教育について学び合い、教師間の連携を図る。	・保護者アンケートの中で「子どもは、やりたいことを見つけ、意欲的に遊ぶようとしている」等の回答の結果が90％以上になる。 ・遊び込む姿をもとにしたエピソードのカンファレンスを学期に2回ずつ(3学期は1回ずつ)行う。 ・2週間に一回、子どもの姿および遊びの環境について話し合い、その後に環境の構成を行う。 ・他園の研究会に年間4回以上参加する。 ・池尻小学校の校内研究会に年間5回以上参加し、小学校教育への理解を深める。	B	・保護者アンケートの結果が肯定的評価が94％以上となり、目標を達成することができた。 ・遊び込む子どもの姿を元にしたエピソードカンファレンスの回数を目標通りに行うことができた。環境の構成のポイント視点として話し合い、ポイントが見えてきつつある一方で、話し合いの時間が十分にとれずに話し合いを深めることが難しいこともあった。 ・子どもの姿については目標通りに話をすることができ、職員の共通理解を図り、環境の構成を行うことができた。 ・他園の研究会には目標以上に参加することができた。 ・池尻小学校の研究会には4回参加することができた。小学校での取り組みや、幼児期の学びが小学校にどうつながっていくかを改めて学ぶことができた。	・短時間でもカンファレンスでの環境の構成のポイントなどを話し合うことができるように、事前に読んでから、意見を出し合う。視点を明確にして話し合うようにする。 ・子どもの姿は引き続き話し合いを園務日程に位置づけると共に、日々子どもの遊びの様子を読み取り、必要な環境の構成についてそれぞれが積極的に声を上げていく。環境の構成については、決まった時だけでなく、必要な時に話し合い、すぐに環境の再構成をしたり、危険箇所について改善したりしていく。 ・池尻小学校との連携をより図り、年間での校内研究会の実施日時の確認と、実施日前の確認を早めに行っていく。	・職員間で課題を共有し、今後も主体性を育むための環境作りに努めて欲しい。 ・子どもの事を丁寧に把握していることがよくわかった。 ・幼小連携にとても積極的に取り組んでいることがよくわかった。
	インクルーシブ教育の推進と充実	○個に応じた適切な援助を計画、実施しに育ち合う保育を実践する。	・特別支援対象児に対し実態把握表を作成するとともに、個別指導計画の様式の見直しを行う。 ・特別支援対象児だけでなく、すべての子どもにとってわかりやすいユニバーサル保育を全職員で実践する。 ・職員間の情報共有、細やかな連携を大切にし、一貫した支援を行う。 ・子どもの発達を促すための方法について保護者に情報を発信する。 ・必要に応じて巡回相談や専門機関など、外部機関との連携を図る。	・実態把握表に基づいて個別指導計画を前後期で作成し、保護者に開示、面談を行い、家庭と連携して支援する。 ・保護者アンケートの中で、「一人一人の子どもに愛情をもってかわり、個々の発達に応じた教育を行い、共に育ち合うようにしている」の回答の結果が90％以上になる。 ・一人一人の子どもに対する支援や情報をクラスごとに週1回、支援担当者の話し合いを月2回行う。 ・学期に1回、園内掲示により、特別支援教育について発信する。 ・特別支援コーディネーターを中心に、外部と連携を図り、職員間で共有し実践する。	B	・実態把握表に基づいて個別指導計画を前後期で作成し、保護者に開示、面談を行い、家庭と連携して支援することができた。 ・保護者アンケートの結果、肯定的評価が91％となり、目標を達成することができた。 ・学年会議を目標通りに週1回に開催することができた。学年内での共通理解が深まった一方、支援担当者の話し合いを定期的にもつことは難しかった。 ・学期に1回の園内掲示で子どもの発達についての情報を発信することにより、園全体の保護者に関心をもってもらうことができた。 ・伊丹特別支援学校のコンサルテーション、学校指導課の巡回相談を利用し、専門的な指導を受け、支援につなげることができた。	・個々の発達、特性に応じての支援・援助について研修を深め、実践していく。また、特別支援対象児だけでなく、全ての子どもにとってわかりやすい保育を全職員で実践する。 ・担任・担当者間で共有した情報を園全体で共有できるよう、支援担当者の話し合いを園務に入れていく。 ・子どもの様子に応じて適時、巡回相談など、外部機関との連携の機会をもうけ、より専門的な知識に基づく支援につなげていく。	・今後も特別支援教育に対する理解、園児についての情報共有を行い、インクルーシブ教育をさらに進めていって欲しい。 ・どの子もよい表情で遊びに取り組んでいる。
豊かな心と健やかな体の育成	豊かな心を育む道徳教育の推進	○自尊感情の育成や他を思いやる気持ちを育む保育を実践する。	・日々の保育の中で一人一人を十分に認め、自分のよさ、友達によさに気付き、互いに思いやりをもって接することができるような保育を実践する。 ・子どもの内面を読み取り、安心して自己発揮できるような保育を実践する。 ・動植物の飼育、栽培を通して命の大切さに気付き、愛情深く、思いやりの気持ちを育む。 ・教師自身の道徳性を高め、研修や啓発誌を通し人権意識を高めていく。 ・DVD研修・人権啓発を通して教師が学ぶ機会をもち人権意識を高めていく。	・保護者アンケートの中で「子どもは、自分を大切にし、他を思いやる気持ちをもつことができるようになってきている」等の回答の結果が90％以上になる。 ・子どものありのままの姿を受け止めることで自尊感情を育み、相手の気持ちに気付いたり自分の行動を振り返る機会を作る。 ・子どもと生き物の飼育をしたり、栽培を通して命の大切さに気付けるような保育を実践する。 ・物の大切さを知らせ丁寧に扱うことに実践できるようにする。 ・自園での保護者研修会や教師間で各種人権に関わる資料を供覧し自らの気付きを実践に活かす。	A	・保護者アンケートの結果、94％の肯定的な回答を得た。 ・子どもの内面を読み取り、自己発揮できるよう教師が意識して保育に取り組むことで、子どもが安心して過ごし、自己肯定感を育むことに繋がった。自分の行動の振り返りを子どもなりにできるようになってきた。 ・動植物の飼育がしやすい環境を作り、触れたり、世話をすることで生き物に対する命の大切さに気付くようになってきた。また、ものに対しても大切に扱えるようにしたり、友達を思いやる気持ちをもてるように保育をすすめてきた。 ・「差別や偏見に気付き自分自身を見つめる」というテーマで保護者懇談会を設けたことで人権について考え合う機会となった。また、教師も同じテーマでの研修会に参加し、人権教育について学びを深めた。	・今後も日々の生活の中で一人一人の思いに寄り添い、自己肯定感を高める保育の工夫をしていく。 ・教師が一人ひとりの良さや考えを認め合えるように、教師同士が学びを共有し、語り合う機会を作る。また、教師自身の道徳性を高め、研修を通し人権意識を高めていく。 ・保護者と教師が同じテーマで研修したことは良かったので、次年度も引き続き研修を深める。	・保育者が一人ひとりの園児を大切に思い、丁寧に保育することが大事なのだと改めて思う。 ・子ども達が身近に生物に触れる場を設定している環境がよい。
	健康教育の充実(健やかな体づくり)	○基本的生活習慣を確立し、自らの健康について関心をもてるようにする。	・基本的生活習慣や熱中症など自らの健康に関心をもつことができるようなほけんのはなしの時間を設けたり保育を実践したりする。 ・ほけんだよりやけんこうカレンダーなどを通して、保護者啓発を図る。	・保護者アンケートの中で、「子どもは手洗いうがいなど自分で健康を守るための行動が出来るようになってきている」の回答の結果が85％以上になる。 ・月1回発達段階に応じたほけんのはなしを実施し、内容を玄関前やホームページに掲載する。 ・日々の保育の中で意識して手洗いうがいなど丁寧にを行うことができるよう、掲示物などを工夫する。 ・月1回ほけんだよりを発行し、夏休みや冬休みはけんこうカレンダーを実践することで、家庭と連携しながら子どもの健康への関心を高めていく。	A	・保護者アンケートの肯定的な回答が、97％となり、目標を上回った。設問を分かりやすい内容に変更したこと、手洗いうがいの基本的生活習慣は身につけてきているのだと評価できる。 ・月1回ほけんのはなしを実施し、実施した日は降園時に内容が伝わるようにクラス前に掲示した。全クラスが終わったあとは玄関前とホームページに写真付きで様子を掲載することで、保護者啓発に務めることができたため、継続していきたい。 ・けんこうカレンダーやレッドコート検査など、保護者に協力を求めた内容も肯定的な意見が多かった。	・分かりやすいほけんのはなしや、掲示物の工夫、保育の中での声掛けなどを引き続き行い、基本的生活習慣が身につくように支えていく。 ・ほけんのはなしのタイムリーな発信や、ほけんだより・けんこうカレンダーを通して保護者啓発に努めている。 ・保育の中で意識して基本的生活習慣ができるように、掲示物等も引き続き見直していく。 ・保健指導が、より園全体の取り組みとなるよう、職員同士の連携を強化していく。	・保護者のアンケート項目の内容が具体的でわかりやすくなったことがよかったのではないかと。
開かれた園づくり	信頼される園情報の積極的な発信	○園の情報発信を工夫し、園教育の理解を推進する。	・ホームページを通して、園生活の様子を発信する。 ・クラスだよりや幼稚園だよりを通して、子どもの育ちや学びを具体的に伝える。 ・掲示板に各クラスの保育写真を掲示したり、Google classroomを活用し、動画配信をしたりしてリアルタイムに保育を保護者に業啓発できるようにする。 ・Google classroomを情報の発信源として使用し、保護者にとって身近なものになるようにする。	・保護者アンケートの中で、「クラスだよりやドキュメンテーション(保育の写真掲示)、動画配信、いけじり幼稚園だより、ホームページなどを通じて、教育方針や活動内容を知っている。」の回答の結果が90％以上になる。 ・担当が保育の様子やドキュメンテーション(保育写真)をホームページにて更新する。 ・クラスだより(ドキュメンテーション)を参観日、参観ウィークの前に配信し、大切にしているところ等観てほしい視点を具体的に伝える。 ・学期に1回クラスだよりを配信し、学期の中での育ちや学びを伝える。 ・担当が動画配信を行う。 ・月3回以上動画配信をする。	B	・アンケート結果が91％となり目標を達成できた。 ・ドキュメンテーション(保育の写真掲示)の更新時期を学年で決めて取り組むことで定期的に更新することができた。 ・参観日や参観ウィークの前にクラスだよりを配信することで内容を楽しみにしてもらえたが短文で保護者に内容を伝える難しさがあった。 ・月に5回以上動画配信することができた。また、自園でマニュアルを作成したことにより担当以外も動画配信することができた。動画の秒数が短いことにより、保護者に様子が伝わりきれていないように感じた。	・クラスだより、ドキュメンテーション、動画配信、ホームページ等発信方法が複数ある中で、どの方法が伝わりやすいかを再度検討していく必要がある。 ・参観日等の前には保育の中で見てほしい視点がわかりやすいドキュメンテーションが掲示できるように年間で、計画的に作成する。動画配信も活用しながら工夫してよりわかりやすく伝えていく必要がある。 ・ドキュメンテーションが更新されたことがわかりやすいよう、クラスルームで配信する。 ・動画配信では職員全員でアイデアを出しながら計画的に内容を配信していけるようにする。 ・限られた秒数の中でも保護者に伝わりやすい方法を工夫する。	・あらゆるツールにより情報発信に努めておられることは、保護者や地域にとってもよいこと。 ・特に動画配信は保護者にとってうれしい事だと思う。

○学校関係者評価総括
一人一人を大切に教育をしていることがよく伝わってきた。今後もいけじり幼稚園のよさを発信しながら、保育の質の向上に努めてほしい
○次年度に向けた重点的な改善点
幼児の主体性を大切にしながら、一人一人に応じた丁寧な保育の実践を積み重ね、更なる質の向上を図っていく。